

社会福祉法人 十字の園 機関誌

# ぶどうの木

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。  
〈ヨハネによる福音書 15章5節より〉

## 30号

2010年(平成22)  
12月10日発行



# 創立記念 50周年特集号

十字の園の精神はディアコニッセの精神です。2010年10月28日・29日の2日間にわたって開催された創立50周年記念十字の園大会では、ディアコニッセの精神を学ぶために、ベテスタ奉仕女母の家理事長・天羽道子氏に記念講演をしていただきました。

## 日本における

# “ディアコニッセ”運動



あまは みちこ  
講師 天羽 道子氏

社会福祉法人 ベテスタ奉仕女母の家理事長  
婦人保護施設 かにた婦人の村施設長

浜松ディアコニッセ母の家の発足は1954年6月、ベテスタ奉仕女母の家の発足は1954年5月であり、ほぼ同じ時期であることは偶然とはいえ神様の導きを感じさせます。

1836年10月13日フリートナー牧師により、ドイツ・カイザーズエアトに「ディアコニッセ母の家」が誕生し、ここからディアコニッセ運動が始まりました。フリートナー牧師は、「はつきり言っておく。この最も小さい者の一人にしなかつたのは、私にしてくれなかつたことなのである」(マタイ福音書25章31節以下)のみことばを最も畏れたといわれます。隣人の苦しみを自分の苦しみととらえ、誠に憐みの心を持ち、キリストの心に最も近い方でありました。

ベテスタ奉仕女母の家は深津文雄牧師によつて起こされ、1956年に社会福祉法人となりました。同じ年に売春防止法が成立。この法律が完全実施となる1958



年、ベテスタ奉仕女母の家は深津文雄牧師によつて起こされ、1956年に社会福祉法人となりました。同じ年に売春防止法が成立。この法律が完全実施となる1958

年に婦人保護施設「いずみ寮」が創設されました。ここには社会的に虐げられた女性が集められましたが、「自然に恵まれた環境で自身の受けた傷を癒してほしい」との願いから、1965年千葉県館山市に「かにた婦人の村」を創設。婦人保護長期収容施設として、今日まで179名の方を受け入れてきました。現在の入居者は87名です。

ディアコニア(仕えること)の源はイエス・キリストであり、イエス様は最初にして最大の奉仕者です。十字架の愛を示してください。イエス様をよく知り、その愛を心に焼き付け、伝道の力によつて生きるものとなるべきです。ディアコニアは形ではなく精神であり、教会のすべての信徒によつて、教会の外へ向かってなされる愛の事業であります。強制的にするものでなく、神様の愛に對する「応答」としてささげられるものです。また、ディアコニアとは「底点志向」です。「底点」とは深津牧師による造語で、福祉の事業とは、最も底辺にある多数の人々を救うことではなく、社会の最も底に存在する身近な弱者のひとり「底点のひとり」に手を差し伸べることなのです。ディアコニッセの事業も、聖隷グループの事業も「底点のひとり」を救うことから始まったのです。そして、イエス様こそが「底点」を救うことをなさった方であり、私たちの中には一番にイエス様への感謝があるのです。

※ディアコニッセ：ドイツ語で「奉仕する女性」の意。使徒言行録6章に記される初代教会の共同生活に仕える7人の執事「ディアコノス」に起源を發し、みことばの宣教とあいまって他の一翼をなす愛の奉仕をする女性。

※母の家：ディアコニッセが生活と奉仕と祈りを共にする生活共同体であり、ここで教育と訓練を受け、ここから奉仕の場へ派遣される場。

# 創立の精神から 新たな福祉に挑戦

このころ

チャレンジ

社会福祉法人 十字の園

理事長 平井章



創立50周年記念十字の園大会の今年のテーマを「創立の精神から新たな福祉に挑戦」としました。振り返ってみれば、制度も法律もない中に最初の老人ホームを創った時から福祉への挑戦(チャレンジ)が始まりました。その後も、無料入浴サービス(スウエーデン製の介助浴槽を地域に開放)を行ったり、県内でも先駆けて老人リフレッシュ事業、高齢者介護ホーム、痴呆性老人生活指導ホーム、介護アドバイザー事業、ヘルパー派遣事業、配食サービス、介護タクシー事業、障がい者居宅支援事業に取り組んだことも福祉への挑戦です。

こうして、50年の間に十字の園は、浜松市、御殿場市、伊東市、松崎町に特別養護老人ホーム4施設、ケアハウス3施設、養護老人

ホーム1施設、障がい者入所施設1施設と介護保険サービス事業29事業、障がい者支援事業12事業、診療所2カ所を設置運営し、職員数も600人を超えるほどになりました。

1961年1月、生活保護法の保護施設として十字の園老人ホーム(定員30名)の事業を開始し、63年に20名、64年に50名増床し定員が100名となりました。71年には御殿場十字の園が定員50名として開設し、73年には浜松20名、御殿場50名の増床、81年には伊豆高原十字の園が定員50名で開設しました。創立20年間に250名分の施設を創ってしまつたのです。この事業のために、職員有志による街頭募金、教会や市民の協力によるバザー、「十字の園を支

える会」による全国募金、また関係市町村からの特別な補助金を法人の原資として、国県補助金、借入金によつて建てる事ができたのです。

その後も、93年には新型軽費老人ホーム(ケアハウス)アドナイ館がデイサービス併設して創られ、全国のモデルにもなりました。2000年ケアハウス御殿場アドナイ館、02年県内初の身体障がい者療護施設併設の松崎十字の園、05年指定管理委託として伊東市立養護老人ホームの運営を開始、09年には地域密着型特定施設としてのケアハウス第2アドナイ館(ユニット型ケアハウス)が建てられました。その時代のその所における先駆的な働きをしてきたと思います。パイオニア精神としての働

きを感じます。信仰によつて、必要(ニーズ)を神さまの命令(使命・召命)として行動したら、必要な時に、必要分の資金、土地、人が与えられたのです。その時々々に備えられたと感じます。不思議なこと。奇跡的なことです。制度や法律が整ってきたとはいえ、社会福祉の終着点はありません。福祉に目を向けていると新しいニーズに「気づき」ます。ハニ姉妹は、世の中の人々がやらないなら、「それは神様が私たちに、教会にやれとおっしゃっているのです」と十字の園を創るときに言いました。その創立の精神(このころ)を受け継いで、これからも十字の園らしさを、十字の園で育てられた「十字の園人」と共に、新しい福祉に挑戦(チャレンジ)していきます。

# 御殿場 十字の園

設立年月 —  
1971年4月

特養 ハウス ショート デイ ヘルパー 居宅 包括 タクシー 配食  
支援 相談

施設理念：喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

## 「想い」をつなぐ

創設40周年を迎えるにあたって

題目

御殿場十字の園は来年創設40周年を迎えます。発表にあたっては、改めて創設からの想いや現在に至るまでの出来事、働き、そして、関係者からのインタビューを通じ、今、施設が「期待」されていることを学び、理解を深めて参りました。

1971(昭和46)年4月に御殿場の地域に特別養護老人ホーム創設の要請を受けて、教会の全面的協力を得て、「主が家を建てるのでなければ建てるものの勤労はむなし」と聖書にあるようにいっさいを神様にお任せし始めました。教会と共に歩み、ボランティアの方や利用者

の方、職員や関係機関など、本当に多くの人に支えられて、今日までに至っている施設であります。



### 施設の将来の姿

この節目の時期に、再度私たちは勇気を持って一人ひとり自分自身を見つめなおし、現在と将来のニーズに目を開いてこれからの働きも歴史に刻んで進み続けて参りたいと思います。

### 施設の主な沿革

- 1971年 開園 定員50名
- 1974年 第二期増築 定員100名
- 1979年 定員107名に変更  
老人短期保護事業開始
- 1985年 老人リフレッシュ事業開始
- 1989年 地域福祉センター開設
- 1997年 ホームヘルパー派遣事業開始  
在宅介護支援センター開設
- 2000年 全面改築  
身体障がい者デイ事業開始
- 2001年 ケアハウス開設
- 2003年 喫茶「ぶどうの木」開始
- 2004年 ガイドヘルパー事業開始
- 2006年 地域包括支援センター開設



# 十字の園大会 〈研究発表主題〉

こころ

チャレンジ

# 創立の精神から新たな福祉に挑戦

延べ2日間にわたり創立50周年記念十字の園大会が開催されました。プログラムは3部構成で行われ、第1部は式典と講演の時間とし、これまでの感謝とディアコニッセの精神の学びの時となりました。第2部は「プロに学ぶ」ことと、お客様への「おもてなし(ディアコニア)」としての夕食懇親会を楽しみ、2日目に開催された第3部は施設発表の時間としました。2日間で職員・ご来賓の方を合わせた参加者は240名余りとなりました。また第3部の施設発表では、施設から未来への意図を込め、それぞれの施設の歴史をふりかえり、現時点での状況を把握し、施設から未来へのメッセージを発表いたしました。

### プログラム

10/28 第1部	〈遠州栄光教会 三方原礼拝堂〉	
	13:00~	開会礼拝 平野芳子牧師
	13:30~	課題講演 平井章理事長
	14:00~	感謝状・記念品贈呈
10/29 第3部	〈ホテル コンコルド浜松〉	
	18:00~	レセプション 落語(三遊亭園塾、三遊亭園王師匠)
	18:40~	夕食懇親会 各施設職員からのおもてなし
	〈ホテル コンコルド浜松〉	
10/29 第3部	9:00~	施設発表
	11:15~	講評・質疑
	11:40~	閉会礼拝 内田知牧師

### 各アイコンの説明

- 特養 特別養護老人ホーム
- 養護 養護老人ホーム
- ハウス ケアハウス
- ショート ショートステイ
- デイ デイサービス
- ヘルパー ホームヘルパー
- 居宅 居宅介護支援事業所
- 包括 地域包括支援センター
- タクシー 介護タクシー
- 配食 配食サービス
- 支援 障がい者支援生活介護施設
- 就労 就労継続
- 相談 障がい者相談支援事業所

※施設ごとに運営しているサービス内容がそれぞれアイコンで示されています。

# 伊豆高原 十字の園

設立年月 —  
1981年4月

特養 ショート デイ ヘルパー 居宅 包括 タクシー 配食

施設理念：あなたのために。

## これまでの30年の歴史の中から、キリスト教精神を踏まえた、今後の展望を考える

次世代に継承されるもの

題目

1981年、当時特別養護老人ホームが1か所もない伊豆半島地域に、十字の園創立20周年記念事業として、伊豆高原十字の園が建設され、伊東教会や日本老人福祉財団、各種ボランティアをはじめとする、多くの方の支援により、今日まで歩んできました。

開園当時婦長であった鈴木フミ氏(初代理事長夫人)は、「利用者は誰一人として同じ人はいません。常にその人その人の事を考えて援助しなければなりません。入居者にとって生活の場である、心の癒しでもある家庭に少しでも近づけるよ

うに…」と話されました。施設理念である「あなたのために」を実践しつつ、常にその人のことを考え続け、満足せず、追い求めていくことが私たちの使命であります。

### 施設の将来の姿

2011年4月、全室個室ユニット型の介護老人福祉施設をはじめ、訪問介護や通所介護などの各事業を実施する総合福祉施設としてオープンします。キリスト教精神を軸に、職員一人ひとりが専門性を生かし、地域に根差した交流の拠点となる施設を目指していきます。

### 施設の主な沿革

- 1981年 伊豆高原十字の園開園。
- 1982年 ショートステイ事業開始。
- 1991年 ホームヘルパー派遣事業開始。
- 1996年 食事サービス事業受託
- 1999年 居宅介護支援事業所指定。
- 2002年 精神障がい者居宅介護事業指定。  
介護職員制服廃止、施設ユニットケア開始。
- 2003年 身体障がい者居宅介護事業、児童居宅介護事業指定。  
介護予防事業開始。
- 2006年 対島地域包括支援センター事業受託
- 2008年 介護タクシー事業開始。
- 2010年 介護予防事業運動器機能向上事業受託開始。  
移転改築事業 入札・起工式
- 2011年 移転改築事業竣工式(予定)



### 施設の主な沿革

- 1960年 ドイツの教会・母の家の献金600万円により浜松十字の園建設開始。
- 12月 社会福祉法人十字の園設立認可。初代理事長に鈴木生二氏が就任。
- 1961年 生活保護施設十字の園老人ホーム認可。
- 1963年 老人福祉法施行。
- 1964年 老人福祉法「特別養護老人ホーム」認可。
- 1976年 入浴サービス事業(無料)開始
- 1999年 デイサービス、ヘルパー事業開始。特養部門でユニットケアによる運営開始。
- 2007年 地域密着型認知症デイサービス「のんき」事業開始。
- 2008年 地域密着型小規模多機能施設「あんき」事業開始。



特養 ショート デイ ヘルパー 居宅

施設理念：今、私の前にいる、その人のすべてを、大切にします。

## 次の世代に継承されるもの その人らしく生活するために

題目

ディアコニッセ・ハニ姉妹は高齢化社会のことも考えられていない時代に「もうすぐ年取った人々が増えてきますね」と仕事仲間と話しかけました。ここから彼女の老人ホームへの構想が始まり、そして1961年1月に十字の園は定員30名のお年寄りや鈴木生二・フミ夫妻、ハニ姉妹など7名の職員によってスタートしました。

浜松十字の園の歴史の中での特筆の出来事は、個別ケアであるユニットケアの導入です。福祉サービスを行う者として何を大切にするか、利用者本位の施設のあり方を考

え直し、サービスの質を向上させることでその人らしく生活することができるのではないか、と考え「その人らしく」生活することを目指し1999年4月に導入されました。

### 施設の将来の姿

福祉のニーズが多様化、高度化していく中で、浜松十字の園の理念「今、私の前にいる、その人のすべてを、大切にします」を基本姿勢に据え、「利用者がその人らしく、快適に生活を送るための支援をすること」を最も大切なこととして受け止め、取り組んでいきます。

# 浜松 十字の園

— 設立年月  
1961年1月

### 伊東市立 養護老人ホーム 平和の杜

運営受託開始年月  
2005年4月

養護 ショート デイ ヘルパー 居宅

施設理念：お一人お一人の幸福と、互いに理解し合い、支え合う  
ノーマライゼーション社会の実現！

### 養護老人ホームのルネッサンス 神様の平和の道具として

#### 平和の杜として目指してきた事

- ①安心～ご家族や地域との絆を大切に、最期まで寄り添って、入居者を支えています。
- ②普通の暮らし～食事、入浴、居場所等、アットホームで、寛げる生活となるよう配慮しています。
- ③健全な運営～介護保険事業(特定・通所・訪問)の運営で、介護力を大幅に増強しました。

#### 平和の杜はいま・・・

- ①グッドネスクエアで、お一人お一人の尊厳を支えることを大事にしています。
- ②コミュニティとして、常に柔軟に

受け入れる姿勢で、セーフティネットの役割を担っています。  
③活かし、補い、育て合って「のびやかで和やかな共生社会」として成長しつつあります。

#### 施設の将来の姿

- ①サティライト型養護の実現と、現施設のバリアフリー化で、QOLの向上を目指します。
- ②生活支援ハウス等、待機者に対する支援と入居者の在宅復帰の可能性を追求します。
- ③多機能サービスで、地域のニーズに応え、安心を支えます。

#### 施設の主な沿革

- 1968年 伊東市立養護老人ホーム開設。
- 1991年 伊東市立養護老人ホーム改築。大池デイサービスセンター併設。
- 2005年 指定管理者制度の導入。社会福祉法人十字の園による運営開始。大池居宅介護支援事業所開設。
- 2007年 訪問介護事業所 平和の杜開設。通所介護事業所 平和の杜開設。
- 4月 特定施設入居者生活介護開設。



VI  
VII

#### 施設の主な沿革

- 1993年 4月 ケアハウスアドナイ館開設。定員50名ケアシステム導入。細江町委託事業としてデイサービスB型開設 定員15名。
- 1994年 4月 外部ヘルパーによる夜間ヘルプサービス開始。9月入居者への十字の園診療所往診開始。
- 1995年 12月 外部ヘルパーによる早朝ヘルプサービス開始。
- 2000年 4月 介護保険制度開始。デイサービス定員25名に変更。細江町より「生きがいデイ」自立支援事業受託。
- 5月 デイサービス 鍼灸院による機能訓練開始。
- 2005年 入居者筋力トレーニング開始。
- 2010年 4月 デイサービス 理学療法士による機能訓練開始。



IV  
V

### ケアハウス 第2アドナイ館

設立年月  
2009年6月

ハウス

施設理念：自分らしく、その人らしく、生き生きと、あなたの「生きる」を支えます。

### 自分らしく その人らしく 第2アドナイ館が支える、「生きる」とは

ユニット型ケアハウスは入居者と「馴染み」の関係が築かれます。それによって後手にまわらない生活支援ができる、いざという時に助け、支え合う雰囲気を持つことができます。

高齢者が、ご家庭やケアハウスに住まれていて、やがて日中夜間と人の手が必要になり特養での生活になった場合、施設のスケジュールによって、生活全般の介護を受けなければなりません。自分のペースで自分の力で生活されてきた方にとって、その生活は窮屈でもあり、意欲を失いかねません。

第2アドナイ館は施設の形をして

はいますが、「一軒の家」のような入居者一人ひとりが自由に自分のペースで生活でき、必要な時はすぐに手を差し伸べることでできることなのだと思います。

#### 施設の将来の姿

施設の理念「自分らしく、その人らしく、生き生きと、あなたの『生きる』を支えます」に添えるよう、20人20色、一人ひとりの「その人らしさ」とは何か、「生きる喜び」とは何かを考え、日々の関わりを通して、「入居者の自己決定」に基づく施設を求めていきます。

#### 施設の主な沿革

- 2009年 6月 ユニット型ケアハウスとして「第2アドナイ館」開設。
- 2010年 1月 ターミナルケアを実践。



#### 施設の主な沿革

- 2002年 4月 特別養護老人ホーム50名。身体障がい者療養施設20名を開所。
- 2003年 8月 通所介護定員15名から20名に変更。松崎町より機能回復訓練事業の受託。
- 2007年 4月 法改正によりオリブを障がい者支援施設に変更。障がい者相談支援事業を市町より委託を受ける。
- 10月 松崎町の健脚教室を受託。
- 2008年 4月 障がい者支援施設の定員変更22名(生活介護は27名)。小規模授産所(西ん子作業所)を統合し、就労継続支援Bワークショップマナとして開所。
- 2009年 4月 障がい者支援として居宅介護。重度訪問、相談の指定を受ける。
- 2010年 8月 空とぶうさぎビルを購入。



特養 支援 ショート デイ ヘルパー 居宅 就労 相談

施設理念：天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。

### 幸せな松崎十字の園

2002年開設からの歩みの中より 支えられて、守られて、祈られて。

題目

松崎十字の園が伊豆半島の西側に創設して9年目です。松崎町が町の中心地に建設する為の土地を貸して下さったおかげで地域の中で生活感のある営みが出来ています。開設当初、介護に慣れていない新職員の指導を浜松十字の園職員に行っていただき、多くの気づきができたことを感謝します。

施設建設運営に関しては松崎教会の働きが大きくあり、特に教会の祈りの中にいつも松崎十字の園のことがあり力を得ています。感謝です。教会・牧師等の協力で施設の毎朝の礼拝は、月曜から金曜日まで毎

朝行われ、キリスト教の精神で運営する為の確認の場になっています。それは、聖書・礼拝またキリスト教の教えに触れながら自分の人生について聖書を通して見つめ直す機会とし、聖書に書かれているイエスの福祉の業に近づいていけるように努力し、目に見えない大いなるものに生かされていることを感じつつ他者に対して、執り成しの祈りの心を持つ事と理解しています。

松崎十字の園は多くの人に支えられ、その一つひとつに神様の恵みの中にあつたことを深く感謝いたします。

### ケアハウス アドナイ館

設立年月  
1993年4月

ハウス デイ

施設理念：一人ひとりがその人らしく生活をし、自立心を損なわないよう支援します。

### 終の棲家をめざして

ケアハウスアドナイ館の足跡を語る

題目

アドナイ館の入居者は、今の生活を一日でも長く続けられることを望んでいます。理想は大往生を遂げることですが、介護が必要になった時、無理なく利用できるサービスが充実し、住み慣れたアドナイ館で最後を迎えることを希望する声も聞かれます。

またデイサービスでは、長年通う方の重度化や、在宅医療の推進により在宅医療をされている重度の方が利用できるデイサービスとしての機能を期待されています。より高い介護技術や、リハビリの充実、専門的な看護、緊急時対応等さらに安

心と信頼を得られる事業所としての成長を期待されています。

#### 施設の将来の姿

入居者や利用者が安心して笑顔で穏やかな生活を過ごすことができ、地域医療、訪問看護、併設の介護保険事業サービスや介護保険外の在宅サービスが充実し、「終の棲家」として入居者の希望を叶えられる力を持ちたい。近隣同法人3施設との業務連携や合同行事など、活発な交流を持ち、同系サービスの特色を明確にした協働体制の中で、地域の福祉を担う施設となることを目指します。



## 伊豆高原新築状況報告④

6月14日の起工式では、出席者全員で鍬入れを行ない工事の無事を祈りました。7月からは工事が本格的にスタート。現在では、3階部分まで立ち上がり、建物の形状を確認することができます。

月に2回、現場事務所にて定例会議・分科会を開き、内容としてはトイレのモデルを使用した手摺りの高さや位置の検討、床材や壁紙の選定など、細かい所まで打ち合わせを行っています。

ユニット名は、平井理事長の考案された現在の居室名に使われている名称を残しつつ、「花が咲き(1階)、木が育ち(2階)、鳥が囀る(3階)」というイメージで決められました。また、ユニット数が現在の4

ユニットから10ユニットへと増えるため、就任予定のユニットリーダーによる会議を頻回に持ち、新施設に向けての話し合いを行っています。その上で12月から第2アドナイ館と松崎十字の園へ介護職員が交代で研修に行き、新施設でのユニットケアに向けて知識を深めてまいります。



先日12月4日には定礎式を行いました。どうぞ来年3月の完成をご期待下さい。

伊豆高原十字の園 介護室リーダー 岩本佑太



## 2010 平成22年度 永年勤続者表彰名簿

おめでとうございます。これからも元気で良い働きができますように！

勤続年数	氏名	施設名称	就職年月日
30年	上野 貢一	アドナイ館	1980年 4月1日
20年	加茂 訓子	浜松	1990年 4月1日
20年	井部 里美	御殿場	1990年 4月1日
15年	杉山亜紀子	御殿場	1994年 9月1日
10年	山村 葉子	第2アドナイ館	2000年 4月1日
10年	今井 優子	浜松	2000年 4月1日
10年	五明 毅	浜松	2000年 4月1日
10年	鈴木 淳司	浜松	2000年 4月1日
10年	大石那津子	浜松	2000年 4月1日
10年	鹿野 勝幸	浜松	2000年 4月1日
10年	田中美智代	伊豆高原	2000年 4月1日
10年	土屋 康美	伊豆高原	2000年 4月1日
10年	松本 有里	御殿場	1999年 4月1日
10年	岩瀬 恵子	御殿場	1999年 12月1日
10年	高村ちよ子	御殿場	2000年 4月1日
10年	伊澤 香	御殿場	2000年 4月1日



表紙写真について(敬称略)

〈前列左より〉鈴木唯男(十字の園初代監事・聖隷厚生園元園長)、山浦ミツ(浜松ディアコニッセ母の家姉妹)〈中列左より〉加藤はる(浜松十字の園元介護長・現第2アドナイ館職員)、鈴木フミ(鈴木生二初代理事長夫人)、中道芳美(画家・感謝記念品の絵を創作)、天羽道子(ベテスタ奉仕女母の家理事長)、望月理恵子(牧ノ原やまばと学園職員)〈後列左より〉平井章(十字の園理事長)、塩川成子(かいた婦人の村職員)

皆さまの  
暖かいご支援を  
お待ちしております。

〒431-1304 静岡県浜松市北区  
細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園  
理事長 平井 章

銀行 静岡銀行 細江支店  
振替 普通 0015345